

日本史B

【解答】

I

解答 1	解答 2	解答 3	解答 4	解答 5
エ	キ	ア	キ	ウ
解答 6	解答 7	解答 8	解答 9	解答 10
カ	エ	キ	エ	ウ
解答 11	解答 12	解答 13	解答 14	解答 15
オ	ウ	カ	イ	カ

II

解答 A	解答 B	解答 C
臨濟宗	五山	水墨画
解答 D	解答 E	解答 F
東インド会社	平戸	国家総動員法
解答 G	解答 H	解答 J
国民徴用令	ベトナム	佐藤栄作
解答 K		
小笠原諸島		

III

1870年代から80年代にかけて、近代的国民国家の構築を目指して進められた政治運動。明治政府の専制的な姿勢に対して、憲法制定、国会開設、地租軽減、条約改正、言論集会の自由など、さまざまな要求をかかげ全国的な運動として展開する。政府の弾圧、内部対立などにより組織的運動は衰退するが、この運動は初期議会の民党の基盤となった。

【学習アドバイス】

本学の入試は、例年選択科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となるので各科目にかけるバランスにもよるが、平均的には50分程度が解答時間となる。本年度の問題では、7世紀から戦後（1970年代初頭）までが出題され、古代・中世・近世・近現代とバランスよく出題されている。本年度は出題されたが、戦後史の出題がなかったこともある。分野では、政治史が多く、次いで外交・文化・社会経済と出題されている。過去には、あるテーマについて古代・中世・近世・近代の順に選択肢が登場するという正誤判定問題もあった。いずれにせよ本学の受験生は、まず全時代を万遍なく学習しておく必要がある。そして、政治史中心の出題ではあるが、文化史・社会経済史も出題されているので、政治史に偏った学習は避けた方がよい。解答は選択式と記述式が併用されているが、選択式は空欄補充・年代配列からなり、また記述式は空欄補充・150字程度の論述で構成されている。本年度は出題されていないが、記述式で誤文訂正が出題されたこともあるので、念のため注意したい。また、本年度は空欄補充が増えたので、受験生にとっては取り組みやすかったのではないと思われる。問題レベルは、高校の教科書範囲内の標準的なものであるが、単なる語句や人名などの棒暗記だけでは対応できないものが少なくない。

日本史で高得点をとるためには、教科書、塾・予備校のテキスト、用語集を活用しながら、語句や人名などの用語に関して5W1H(→6W1H1R)を念頭に置いて理解しておく必要がある。Who(誰が)、What(何を)、When(いつ)、Where(どこで)、Why(なぜ)、How(どうしたのか)を考え、知識を吸収することである。これにWhom(誰に・誰を)、Result(結果)も加えると、より理解も深まる。その際に肝要なのは、間違った箇所を必ず教科書、塾・予備校のテキスト、用語集で確認することである。なお、一問一答形式の問題集だけに熱中するのは、本学の問題形式では効果があまり期待できない。

さて、本学の受験生の多くが困惑しているのは、150字の論述問題であろう。ここでも、6W1H1Rを考えながら、メモをとって答案作成すれば問題はない。ただし、これらすべての要素を満たす必要はない。例えば、「明治期における自由民権運動について、知るところを述べなさい」の場合、When(明治初期[征韓論が否決されてから])、Who(板垣退助らが)、What(国会[民撰議院]の開設を)、Why(①「専制的な藩閥政府への士族の不平が高まっていたから」、②「天賦人權説などの西欧の近代的な思想が流入していたから」)、How(国会開設運動をすすめる)、Result(①「福島事件・秩父事件などで弾圧を受け、衰退していった」、②「政府も憲法制定、国会開設を実現させていった」)などと答案を作成していけばよい。また、「自由民権運動」の場合、長期にわたるものなので、途中の経過(Process)も押さえる必要がある。すなわち、①「西南戦争後の高揚」、②「松方デフレ後の激化」を入れて答案を作成するということである。いずれにせよ、基本的なレベルの用語(用語集の教科書掲載頻度の高いもの)を中心に、150字以内で説明する訓練をしておけば、論述の恐怖心もなくなるはずである。そして、書いた答案は、題意にあっているか、論旨は一貫しているか、史実や年代配列に間違いはないか、誤字・脱字はないか、そして文章として意味が通じているかなどの点検が必要となってくる。高校の先生や塾・予備校の先生に添削指導してもらえれば、「恐るるに足らず」である。

一方、本学の日本史問題において比較的平易なレベルのものは、選択式の空欄補充問題である。ここで問われているのは、高校教科書の太字の箇所である。記述式の空欄補充問題は、漢字のミスをしてはいけない。正確な漢字で書くことが求められるので、普段の学習から手を動かして用語を覚えておくべきである。また、選択式での年代配列問題は、When(いつ)を常に念頭に置いて用語を覚えておく必要がある。もちろん、正誤問題がいつ復活するとも限らないので、過去問演習などで間違った問題は、高校の教科書の索引の前後にある年表も活用して入念にチェックし、また6W1H1Rを押さえた上で用語への理解を深めておきたい。

以上のような対策を着実に積んでいけば、必ず合格への道が開けるはずである。